

自分にとっての車いす

東京頸髄損傷者連絡会 I. M

約 23 年前に交通事故で救命センターに運ばれました。意識が戻ると先生に今の自分の状況の説明を受けて、この先の人生、車いすで生活していかなくてはならないのだと感じました。

初めて乗った車いすは ICU に置いてある車いすでした。乗り心地は、ただただ窮屈なだけだったのを覚えています。その後病棟に移り 1 日に 2 時間程度車いすに乗ることができました。とはいえ腕もまともに動かないので病棟内の行きたいところに看護師に連れていってもらって、そこで時間をつぶして、またベッドに戻るというだけで、その頃の自分にとっての車いすは寝てるよりは起きてる方が良いでしょうという程度のものでした。

その後、リハビリセンターに移り自分用の手動車いすを作り、車いすをこぐためのグローブを作ってもらい自分で手動車いすをこぐ練習をしました。施設内はどこも平坦で私の力でも移動ができる環境でリハビリセンターでの車いすは自分自身で移動することのできるものになりました。

リハビリ生活が終わり自宅に戻ってからは、外に出る機会を多くしたのですが、リハセンターの敷地内と違い、道路などでまともに車いすを操作できる状態ではないので移送サービスなどを使い、身内や友人に押ししてもらいながらの外出でしたが、身内や友人の負担が多くて窮屈な気持ちが強くなっていきました。そんなときに電動車いすを 1 週間ほど借りて乗る機会があり、一人で外出してみました。誰に頼むわけでもなく、自分の意志で自分の行きたいところに行けて、メッチャ自由を感じた瞬間でした。

その後自分の電動車いすを作りました。この先、社会参加していく上で必要不可欠な自分の足だと思っています。



手動車いす



現在使用中の電動車いす



チルト&リクラ&フットレスト



オリジナルテーブル